

取組概要

背景情報：解決したい社会や行政の課題

受刑者の刑事施設出所後の再犯防止のためには、就労が重要であるところ、就労支援を受ける受刑者は、出所受刑者全体の約2割程度にとどまっている。より多くの受刑者が就労支援を受けることを希望するよう受刑者の意識・行動変容を促す必要がある。

課題分析：目標行動を阻害するボトルネック

- ① 就労支援制度の内容への理解度が低いこと
- ② 受刑歴を知られると不利益を被る可能性があると考え、出所後に自分で仕事を探すことを希望すること
- ③ 就労の当てがあること(ただし、その根拠が曖昧で見込みに過ぎない。)
- ④ 生活保護や年金で暮らすことを希望すること

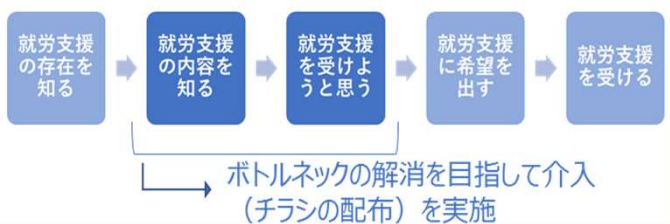
解決方法：ナッジの概要と活用した行動科学の知見

明確なタイトルや簡潔なメッセージは「簡易化」、マンガは目に留まりやすくするという「顕著化」、チェックリストの採用は自分事として認識してもらうための「個人化」

実施内容

●令和4年度内に、当事者や支援者等へのヒアリングを通じ、就労支援が周知されてから受刑者が就労支援を受けるまでのボトルネックを整理した上で就労支援を受けることを促す取組を検討(図1)し、介入方策(チラシ配布)を考案した上で、ランダム化比較試験(RCT)により5施設で試行し、その効果を把握・分析。

図1



1 就労支援のススメ 出所までの当たり前!!

※「就労支援は希望を申し出ないと受けられません。」

② チェックリストで確認しましょう!

- 就労支援って何をやるのか、よくわからない。
- 出所後の仕事は決まっていない、もしくは、帰る場所がない。
- フルタイムで働く自信がない、生活保護や年金でくらしたい。
- 仕事は見つけたけれど、刑務所にいたことを知られたくない。
- 雇ってもらえる相手がいるけれど、しばらく連絡していない。
- 帰る場所や仕事は自分で考えたい。

③ まずは支援の希望を申し出ましょう!

- 就労支援を希望する人が入所後、面接時に面接官から出所後について話を聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。

④ 仕事に関する悩みを相談できます!

- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。

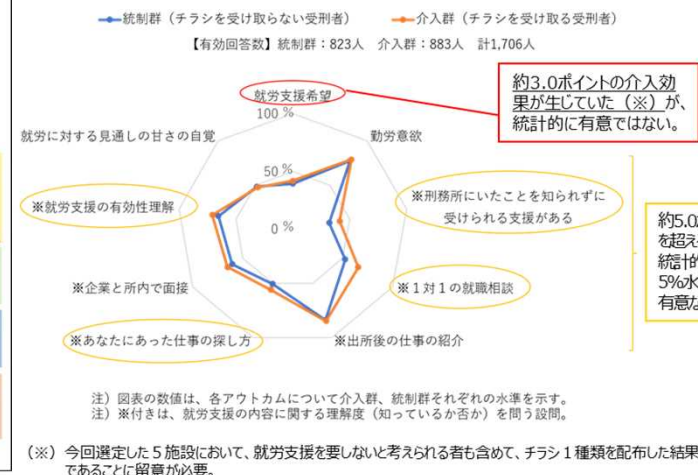
⑤ 安心してできる働き方を紹介します!

- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。

⑥ 少しでも不安があったら相談してみよう!

- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。
- 面接時に面接官から「希望を教えてください」と聞かれます。

統制群と比較した介入効果



支援行政機関：総務省
支援年度：令和4年度

https://www.soumu.go.jp/main_content/000882432.pdf

効果測定の手法

本取組を試行した刑事施設5庁の工場(クラスター)を単位としたクラスター-RCTを実施。実施期間において、配布対象工場の受刑者に対してチラシとアンケートを配布・回収。非配布対象工場においては、アンケートのみ配布・回収。

得られた結果・社会や行政への応用可能性

・今回配布したチラシには就労支援の知識向上に一定の効果があることを確認したが、支援を受ける意欲を向上させるかどうかはわからなかった
・介入により解決したい課題の解決策を検討するための探索的な分析も合わせて実施することで、次の介入方策の検討を行うことが可能となる。